

大 神 楽 に 毛 士

紙相撲新聞

第160回本場所
中日～七日目

編集・発行
日本紙相撲協会

平幕夢ノ花が土つかずで単独首位に

1敗で千代鈴、大神楽ら6力士が追走

【第百六十回本場所中日～七日目】

11月初旬というのに夏日を記録した11月3日、気温に負けぬ熱戦の中日と七日目が開催された。

七日目を終わって前頭七枚目の夢ノ花がただ一人7戦全勝として、優勝争いの単独トップに立った。これを1敗で、横綱千代鈴、大関大神楽、関脇鉄甲、平幕の西神門、宇治家、剛勇山の6人が追いかける展開となった。



↑今場所安定の取り口で6連勝、千代鈴とも星1つ差で徐々に優勝が期待される大神楽だが、七日目伏兵喜乃郷に対し、左を差して攻めながらも喜乃郷の粘りに屈して初黒星を喫した。

↓七日目、平幕の全勝対決、夢ノ花対剛勇山の一番は大激闘の末夢ノ花の勝利。



四日目に千代鈴に土がつき、優勝候補の筆頭に名前が挙がって来た大関大神楽。今場所は先場所と比べて左を差しかかき、非相撲らしい早相撲の危険な展開が予想される。

初日から5連勝と気が吐く元小結剛勇山は、土つかずの6連勝で勝ち越しを決めると、七日目は全勝対決で夢ノ花と対戦した。

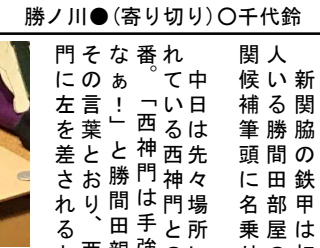


剛勇山○(押し倒し) ●鹿麒麟

夢ノ花は入幕4場所目。これまでは6勝5敗、7勝4敗、6勝5敗と負け越してきただけで、大勝することがあまりなかった。この日は注目を集めたが、着実に力をつけてきて、今場所一気に開花した感じだ。

夢ノ花○(押し倒し) ●月山

横綱千代鈴は四日目に鹿富士に敗れ、五日目も喜乃郷に取られ、相撲で辛勝するなどのこへ来て少し歯車が狂っている感じが不安視する親方。不安定な前半戦だった。



千代鈴○(寄り切り) ●烏帽子

新関脇の鉄甲は初日から無傷の5連勝。9人いる勝間田部屋の幕内力士の中で、一躍大関候補筆頭に名乗りを上げた。

鉄甲●(寄り切り) ○西神門

勝ち越しを賭けた中日は元三役実力者の月山との対戦。対戦前の予想では「月山のど輪で夢ノ花を押し倒すのではないか」との声をはね除けるように、逆に月山を押し倒した。

「あゝあゝ」と館内からはため息が。中日まで隙のない相撲をみせていたが、七日目に土がついてしまった。

今場所の相撲内容は巧みに左差して寄る上手い相撲を取るかと思えば、右のど輪からの攻めをみせるなど多彩で、親方衆も「上手いなあ。」と感心しきり。

しかし、中日は勝ノ川、七日目は烏帽子岳に対し、本来の取り口が戻ったかのような横綱相撲で6勝1敗とした。



勝ノ川●(寄り切り) ○千代鈴



鉄甲○(寄り切り) ●鬼ヶ嶽

もできずに今場所の初黒星を喫した。しかし、七日目は鬼ヶ嶽に激しい攻防の末、勝って勝ち越しを決めた。

鉄甲●(寄り切り) ○西神門

- 全勝 夢ノ花
- 一敗 千代鈴、大神楽、鉄甲
- 西神門、宇治家、剛勇山